

事例研究～中国ビジネス法務

北京市大地律師事務所 / 日本部
パートナー弁護士 法学博士 熊琳

第163回 2020年の消費者デー特番がようやく放送

中国中央電視台(以下「CCTV」という)は、消費者の權益および市場の秩序を守る目的から、1991年より毎年3月15日の国際消費者權益デーに「315晚会」という特別番組を全国放送し、各企業の違法行為を暴いて中国社会に大きな影響を与えてきました。番組で取り上げられた企業はただちに注目されて処罰を受けるほか、番組の内容は当局が注目する重点分野を反映するものにもなっています。今年は新型コロナウイルスの影響を受けたため、本来は3月15日に放送される当番組が7月16日になりようやく放送されました。今回は、今年の放送内容をご紹介します。

◇2020年「315晚会」の主要な摘発対象とその内容

今回取り上げられた9件の対象中に、日系企業に関わるものはありませんでしたが、米国系企業に関わるものが2件あり、その他の7件はいずれも中国国内企業についての内容となっています。

(1) 米国系企業「バーガーキング」による食品の品質保証期限の改ざん

CCTVは通報を受けた後、中国のバーガーキング店舗を調査し、ハンバーガーを製造する過程で、店員が品質保証期限の切れたパンズのラベルをはがし、期限内のラベルに貼り替えた上で、期限切れのパンズをそのまま使用してハンバーガーを作っていたことがわかった。また、原材料のチキンパテなどにおいても同様の違法行為があった。

番組放送後、所在地の政府関係機関ではただちに取り締まりを行い、7月16日当日夜に問題の食品85.38キログラムを押収し、同チェーンの6店舗に営業停止・整理を命じた。うち違法の疑いのある3店舗に対しては、さらに立件調査を行った。

(2) 上汽通用五菱汽車(中・米合弁)が製造する「宝骏560」のギアボックスに故障が頻発

当該メーカーの「宝骏560」において、運転中に突然エンストする状況が多発し、調査によりギアボックスの故障が原因であることがわかったが、ギアボックスを修理してわずか4～5カ月後に同様の故障が再発し、徹底的に修理することができず問題となっていた。2018年3月、「宝骏560」は突然製造停止が宣言されたが、メーカーからはギアボックスの問題についての解決案が提示されず、所有者は大いに懸念し、困惑している。

(3) その他の摘発対象

- 山東省のナマコ養殖場で、養殖用水中に農薬ジクロロボスが投入されており、農薬使用の規則違反が疑われる。また、品質の劣るナマコを高品質品種と偽り消費者に販売した詐欺行為も存在する。
- 河北省のタオルの集中生産地域で、廃棄繊維製品、端材などの品質の劣るものや、衛生面リスクのある回収材料からなる廉価な原料を用いて合格基準に達しないタオル製品を生産している。
- 一部の不動産デベロッパーが引き渡した物件に浴室の水漏れなどの品質問題が存在し、重大なガス漏れすら発生したことがあり、不動産購入契約に約定された「高級内装物件」の基準を満たしていない。
- 一部の美容サロンで、「無料体験」をうたって顧客を店舗に引き入れた後、店内でだましの手段を使って顧客に高額消費をさせたうえ、消費者が返金を主張し難いような契約条項を設定している。
- 特定のウェブサイト上でみだりに違法広告が掲載され、ユーザーを賭博に誘い込むような広告コンテンツさえ出現している。

- ユーザーのプライバシー情報を盗み取るアプリSDKが数十件見つかっており、機器のIMEI、プロバイダー情報、電話番号、SMS記録、アドレス帳、インストールアプリ一覧やセンサーデータ、オンライン取引の認証コードまでもが盗み取られる可能性がある。
- 特定のウェブサイトを運営する企業の営業担当者が消費者をだまして特別技能資格研修への参加を契約させたが、参加者は終始資格試験を受けることができなかった。

◇放送内容からうかがわれる政府の最近の重点注目分野

今年の「315晚会」で取り上げられた内容はいずれも、一般消費者の生活と直接関連する分野、衣食住の各方面に関わるもので、今後一定期間は、中国政府の関係機関による調査、取り締まりの重点分野が、食品の安全、消費における詐欺行為、自動車や一般商品の品質問題などに集中することが予想されます。

また、CCTVなどのメディアが関連の事実を取材し、番組として放送するまでには一定の時間的間隔があることから、取材活動は比較的長い期間持続されていたことがわかります。そのため今回取り上げられなかった分野も対象外であるとはいえ、コンプライアンス違反とならないよう、依然留意する必要があります。

◇日系企業も「315晚会」のもたらす影響に十分注目を

外資系企業との関連性について、今回の「315晚会」で米国系企業のみが取り上げられたこと背景には米中関係の緊張の高まりがあると思われませんが、他の外資系企業について報道がなかったからといって、「315晚会」の状況や動向が注目に値しないということはありません。日系企業で「315晚会」の報道内容とその影響への対応方法を日頃から講じておくことは、法律や経営の観点からも意義のあることといえます。

東方航空、福建省で路線拡大＝アモイに新会社

中国ニュースサイト、澎湃新聞が27日までに報じたところによると、上海市を拠点とする東方航空はこのほど、福建省の主要都市、アモイに現地法人「東方航空アモイ分公司」を設立した。

2025年までに旅客機40機を導入し、アモイと北京や上海、昆明、西安などの中核空港を結ぶ路線を拡大する。また、日本や韓国、台湾、東南アジア向けフライトも強化する。

東方航空は1990年、アモイに営業部を設け事業を始めた。アモイ空港で18路線を運航しており、2019年の乗客数は約300万人だった。(上海時事)

金、史上最高値を更新＝不透明感で買い殺到

【ロンドン時事】27日の国際金市場で、金の現物価格が史上最高値を更新した。一時1オンス当たり1943ドル台を付け、2011年9月に付けた1923ドルを上回った。新型コロナウイルスの感染再拡大や米中対立の激化などで投資家の先行き不透明感が強まり、安全資産とされる金に買いが殺到した。

年初からの上昇率は約30%に達した。金は主にドル建てで取引されるため、米連邦準備制度理事会（FRB）の金融緩和でドルが他通貨に対して下落するとの見方が強まっていることも追い風となった。

英調査会社キャピタル・エコノミクスは「金は今後数年間は上昇を続けるだろう」と指摘。今年6月には米金融大手ゴールドマン・サックスが21年に金価格が2000ドルに達するとのレポートを出していた。



積み上げられた金の延べ棒＝2019年4月、ドイツ・フォルトツハイム（AFP時事）

世芯、中国企業からサーバー用CPU設計受注か＝台湾

27日付の台湾経済紙・工商時報（B1面）によると、IC設計の世芯電子（アルチップ・テクノロジーズ）は、中国IC設計企業の天津飛騰信息技术から、回路線幅7ナノメートル（ナノは10億分の1）のサーバー向けCPU（プロセッサ）の設計を受注したとの観測が浮上している。同PCUは今年中に量産を始めるとみられている。